



# くすい箱

発行

桐生厚生総合病院 薬剤部  
 発行責任者 小林 真弓  
 編集担当者 千吉良 啓介  
 矢古宇 由佳  
 小島 強

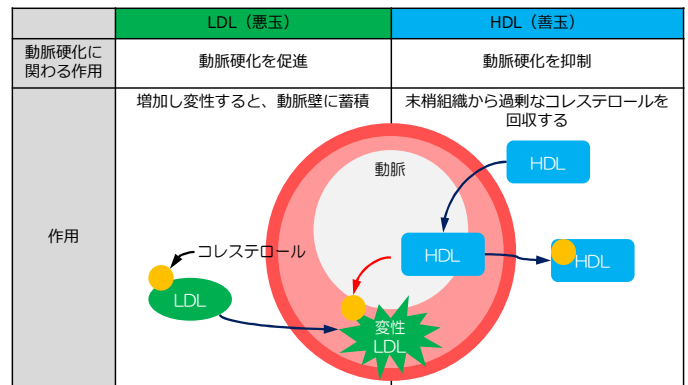
## 第 33 回目のテーマは脂質異常症とその薬についてです。

### 脂質とは？

主な脂質の種類としては、コレステロール、中性脂肪(トリグリセライド・TG)、遊離脂肪酸、リン脂質などがあり、生命維持には欠かせない役割をそれぞれ果たしています。今回は、その中でも生体膜の構成成分、ホルモンの前駆体、脂肪の吸収などに関わっているコレステロールを中心にお話させていただきます。

### 悪玉コレステロールと善玉コレステロール

LDL というリポ蛋白に含まれるコレステロール(LDL-コレステロール)のことを悪玉コレステロールといい、HDL に含まれるコレステロール(HDL-コレステロール)のことを善玉コレステロールといいます。これらのコレステロールは動脈硬化に関わっており、悪玉コレステロールは動脈硬化を促進し、善玉コレステロールは動脈硬化を抑制します。



### 脂質異常があると…

コレステロールや中性脂肪が高い脂質異常症の人は、脂質異常症と適正值の境界の人、つまり潜在患者も入れると、2,200 万人もいます(平成 12 年度厚生労働省循環器疾患基礎調査)。加えて、自分が脂質異常症であることを自覚していない人が多く、自覚している人はわずか 30% (平成 18 年国民栄養調査)にすぎません。

脂質異常症は自覚症状がほとんどなく、放置すると全身の血管の動脈硬化が徐々に進むため、心臓に血液を供給している冠動脈が狭くなる、または詰まることによって起こる狭心症、心筋梗塞を引き起こします。さらに心臓だけでなく脳の血管が詰まる脳梗塞などを引き起こすため、重大な合併症が起こる可能性が高まります。そのため、早期発見が重要であると共に、生活習慣などに気を配り、脂質異常症が発症しないように予防することが大切です。



脂質異常症の動脈硬化予防のためのスクリーニング基準値(日本動脈硬化学会による「動脈硬化性疾患予防ガイドライン(2012 年版)」)は、以下のとおりです。

LDL コレステロール(LDL-C)	140mg/dL 以上	高 LDL コレステロール血症
	120-139mg/dL	境界域高 LDL コレステロール血症
HDL コレステロール(HDL-C)	40mg/dL 未満	低 HDL コレステロール血症
トリグリセライド(TG)	150mg/dL 以上	高トリグリセライド血症

## 📌 脂質異常症の主な治療薬

生活習慣の改善を行っても十分に効果が得られない場合などには、薬による治療が行われます。薬により特徴が異なるため、症状に応じて選択され、用いられます。今回は当院で採用のある薬を中心に紹介させていただきます。



分類	LDL-C	TG	HDL-C	一般名	代表的な商品名
HMG-CoA 還元酵素阻害薬(スタチン)	↓↓↓	↓	↑	プラバスタチン	メバロチン
				フルバスタチン	ローコール
				アトルバスタチン	リピトール
				ロスバスタチン	クレストール
陰イオン交換樹脂	↓↓	—	↑	コレステミド	コレバイン
小腸コレステロールトランスポーター阻害薬	↓↓	↓	↑	エゼチミブ	ゼチーア
フィブラート系薬剤	↓	↓↓↓	↑↑	ベザフィブラート	ベザトール SR
ニコチン酸誘導体	↓	↓↓	↑	トコフェロールニコチン酸エステル	ユベラ N
プロブコール	↓	—	↓↓	プロブコール	ロレルコ
EPA	—	↓	—	イコサペント酸エチル	エパデール

↓↓↓: ≤-25%   ↓↓: -20~-25%   ↓: -10~-20%   ↑: 10~20%   ↑↑: 20~30%   ↑↑↑: ≥30%   —: -10~10%

- ❖ スタチンは、LDL コレステロールを強力に下げるとともに脂質異常症の方にはよく使用されます。副作用としては手足のしびれ・痙攣、手足に力が入らない、激しい筋肉痛、赤褐色の尿などの症状が出る横紋筋融解症、肝機能障害、過敏症が起こることがあります。
- ❖ 陰イオン交換樹脂は、体内に吸収されず便と一緒に排泄されるので副作用は比較的少ないですが、便秘や腹部膨満感、皮膚症状などが起こることがあります。また、食べ物にもくっつくため食前に飲みます。
- ❖ 小腸コレステロールトランスポーター阻害薬は、小腸における食事および胆汁由来のコレステロール吸収を抑制することにより、コレステロール値を改善する薬です。比較的副作用は少ないですが、便秘、下痢、お腹が張るなどの消化器症状があります。
- ❖ フィブラート系薬剤は高トリグリセライド血症に対して最も効果的な薬剤です。主な副作用として横紋筋融解症が起こることがあります。
- ❖ ニコチン酸誘導体は主にトリグリセライドを下げます。副作用としては顔が赤くなる、消化器症状があります。
- ❖ プロブコールは、コレステロールの排泄を促進したり、LDL の酸化を抑えることで動脈硬化を予防します。副作用として発疹などの皮膚症状や下痢、吐き気が起こることがあります。
- ❖ EPA には脂質に対する作用以外にも、抗血小板作用や抗炎症作用による動脈硬化予防も期待されています。主な副作用としては下痢などの消化器症状以外に出血傾向に注意が必要です。

**次回は、2014年 12 月発行予定です。**